

定期作況報告

(第4号 平成23年8月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温は平年より1.9℃高く、最低気温は平年より0.3℃低かった。降水量は平年より44.7mm少なく、平年対比13%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より30.6時間多く、平年対比161%であった。夏日（最高気温25℃以上）は10日、真夏日（最高気温30℃以上）は2日であった。

8月上旬：最高気温は平年より3.5℃高く、最低気温も平年より0.9℃高かった。降水量は平年より35.0mm少なく、平年対比24%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より34.3時間多く、平年対比171%であった。夏日は10日、うち真夏日は7日あった。

8月中旬：最高気温は平年より0.4℃高く、最低気温も平年より0.4℃高かった。降水量は平年より64.6mm多く、平年対比239%であった。降水日数は平年より2日多かった。日照時間は平年より1.2時間少なく、平年対比98%であった。夏日は8日、うち真夏日は2日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	28.0	26.1	1.9	30.6	27.1	3.5	26.8	26.4	0.4	28.5	26.5	2.0
最低気温(℃)	16.0	16.3	▲ 0.3	18.7	17.8	0.9	16.9	16.5	0.4	17.2	16.9	0.3
平均気温(℃)	21.4	20.7	0.7	24.0	22.1	1.9	21.5	21.0	0.5	22.3	21.3	1.0
降水量(mm)	6.5	51.2	▲ 44.7	11.0	46.0	▲ 35.0	111.0	46.4	64.6	128.5	143.6	▲ 15.1
降水日数(日)	2	5	▲ 3	1	4	▲ 3	6	4	2	9	13	▲ 4
日照時間(hr)	80.5	49.9	30.6	82.5	48.2	34.3	49.7	50.9	▲ 1.2	212.7	149.0	63.7

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事由：出穂期は平年に比べ「ほしのゆめ」「きらら397」が2日遅く、「ななつぼし」は1日遅かった。穂揃い日数は平年に比べ「ほしのゆめ」が平年並み、「きらら397」は2日長く「ななつぼし」は1日短かった。最終止葉葉数は平年に比べ0.2～0.3枚多かった。

8月20日現在、稈長は平年に比べ0.8cm～2.8cm長く、穂長はほぼ平年並みであった。㎡当たり穂数は平年対比で「ほしのゆめ」が99%、「きらら397」が96%、「ななつぼし」が93%であった。

以上、㎡当たり穂数は平年並から7%程度少ないものの、生育はほぼ平年並みに進んでいることから、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名	苗	出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	7.23	7.21	2	7	7	0
きらら397	成苗	7.25	7.23	2	8	6	2
ななつぼし	成苗	7.23	7.22	1	6	7	△1

注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) △印は平年に比べて「早」を示す。

3) 出穂期：有効茎数の40～50%が出穂した日。

表3 8月20日現在の本田生育

品種名	苗	最終止葉葉数(枚)		
		本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	10.3	10.0	0.3
きらら397	成苗	11.4	11.1	0.3
ななつぼし	成苗	10.6	10.4	0.2

品種名	苗	稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ	成苗	67.2	64.4	2.8	15.9	16.2	▲0.3	726	736	▲10	99%
きらら397	成苗	63.4	62.4	1.0	17.0	16.9	0.1	663	690	▲27	96%
ななつぼし	成苗	68.8	68.0	0.8	17.2	17.1	0.1	615	664	▲49	93%

注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦： やや不良

事 由：穂数は平年を大きく上回り、穂長も平年よりやや長かった。しかしながら6月中下旬の日照が少なく、7月上・中旬の夜温が高かったため子実の充実は不良となり、千粒重は平年を大きく下回った。このため、子実重は平年比92%と低収となった。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表4 秋まき小麦の収量

品 種 名	成 熟 期 (月日)			穂 数 (本/㎡)			穂 長 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	7.20	7.19	1	843	678	165	8.9	8.5	0.4

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	700	762	▲62	92	100	▲8

品 種 名	千 粒 重 (g)			リットル重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	32.5	40.1	▲7.6	797	785	12

注1) 平年値は、前6か年中、平成22年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦： 不良

事由： 7月第6半旬は高温に経過したものの、成熟期は平年より3日遅かった。構成要素は調査中であるが、収量調査では360kg/10 a 程度と子実重が大きく低下している。

したがって、目下の作況は不良である。

表5 8月20日の春まき小麦の生育

品 種 名	出穂期 (月日)			成熟期 (月日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
春よ恋	6.22	6.20	2	7.31	7.28	3

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、22年を除く5か年の平均値。

4) 大 豆 : 平年並

事由：主茎長は平年より長く、8月14日の降雨により一部倒伏した。主茎節数は平年より若干少なく、分枝数、着莢数はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 8月20日の大豆の生育

品種名	主 茎 長 (cm)			主茎節数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	70.6	65.4	5.2	10.2	10.6	▲0.4	6.7	6.6	0.1

品種名	着 莢 数 (個/株)		
	本年	平年	比較
ユキホマレ	80	85	▲5

注1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

5) 小豆 : 平年並

事由：開花期はほぼ平年並であった。開花期以降は高温に経過し、7月下旬、8月上旬は少雨であったことから、節間伸長が抑制された。主茎長は平年を下回り、本葉数、分枝数はほぼ平年並である。なお、8月14日の降雨により一部倒伏した。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 8月20日の小豆の生育

品種名	開花期(月日)		
	本年	平年	比較
エリモショウスズ	7.20	7.21	△1
しゅまり	7.21	7.21	0

品種名	主茎長(cm)			本葉数(枚)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモショウスズ	56.1	64.5	▲8.4	12.6	12.6	0.0	5.6	5.1	0.5
しゅまり	57.9	71.3	▲13.4	12.1	12.1	0.0	6.4	5.9	0.5

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、平成20年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 不良

事由：7月下旬から8月上旬にかけて高温、少雨に経過したため、茎葉はしおれ気味となり、黄変も進んでいる。上いも平均一個重は平年より20g軽く、上いも収量は平年を大幅に下回っている。なお、でん粉価は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は不良である。

表8 8月20日のばれいしょの生育

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	11.4	12.4	▲1.0	78	98	▲20	3962	5366	▲1404

品種名	でん粉価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	15.5	14.8	0.7

注1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。